

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091800013		
法人名	株式会社ピース		
事業所名	グループホームほりいけ		
所在地	福岡県飯塚市堀池268番地1		
自己評価作成日	令和3年10月29日	評価結果確定日	令和3年11月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウラズン
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	令和3年11月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自宅での生活が困難となりホームへ入居され、家族と離れての生活で不安やさみしさを感じていることをスタッフ全員が理解し受け止め支援させていただいている。日常会話、スキンシップを大切に、レク活動を通して他者との交流の場を設けている。
毎日笑顔で過ごしてほしい！と、日々のレク活動・食事にも力を入れている。定期的な食事会では、鍋・ホットプレートでの焼肉・お好み焼き・敬老会では毎年恒例で握りずし食べ放題をしている。お誕生日にはホールケーキで、みんなでお祝いをしている。日々の何気ない日常を写真とスタッフの寄せ書きを収め、年に1度贈り、居室に飾っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関や事務室に掲示した理念の日々の喜びや笑顔を大切にされた支援に努めている。入居者本意のケアを掲げ、言葉遣いや接遇に留意し、「入居者に意見を伺う」姿勢で声をかけている。訪問調査当日、救急搬送された方は終末期はホームでと希望され、血液透析を拒否される入居者の主治医からは、いつでも入院を受け入れるとの指示を受ける等、医療機関と密に連携しながら、今後も重度化や終末期に関わる予定である。コロナ禍の中、運営者は家族に会わせたいとの篤い思いで、感染防止対策を講じ玄関で短時間の面会を支援し、行事や誕生会の折の入居者の写真を満載した通信を発行している。7月に開催された運営推進会議では市担当者から感染防止に対する労いを受けるなど、家族や地域の理解や協力を得ながら、心地よい安心した生活支援が展開している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **すずらん／グループホームほりいけ**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしい生活が送られる様、情報共有、意見交換を行い、個々に応じた声かけ、支援ができるようにしている。	玄関や事務室に理念を掲示し、毎月の合同ミーティングで振り返りをしている。理念の「日々の喜びや笑顔を大切に」の具現化に努め、入居者の「ありがとう」の言葉が励みになると、職員は話している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前までは地域からの各種慰問があったが、コロナ禍の為慰問は出来なかった。地域(隣)の農家の方が以前より時折季節の野菜を届けてくれたが、今年は頻回に野菜をいただき、小さな交流・つながりが密になってきている。	感染防止対策を講じながら、地域の高校の実習生を10日間受け入れている。コロナ禍の中、近隣農家からの野菜差し入れは以前より頻回となり、新鮮な野菜を自費で購入する職員もあり、交流が広がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加していただいた際、入居者さんの現状、様子を知っていただき認知症の方への理解をしていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催し、市の担当者、地区自治会、地区青年部、ご家族に参加していただき、近況報告や災害時の協力の依頼等を行い、意見をいただくようにしている。	今年7月の運営推進会議は、市職員や地域青年部部長、家族などの参加で開催され、会議録を整備している。入居者の暮らしぶり、新型コロナワクチン接種状況を報告し、市職員から感染発生が無くて良かったと労いの言葉があった。会議内容は、市のホームページに掲載されている。	運営推進会議設置目的に鑑み、会議録を玄関などで公表されることや、全家族に会議開催を通信で案内されているので、内容の報告も期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の高齢介護課からのお知らせや、生活支援課の担当者からの、空き状況や、入居者の状態についての確認の電話がある。	3か月毎に市に入居者リストで居室情報を提供しているが、担当者が来訪し、面会簿や掲示物、入居者の確認などがあった。今後も、担当者と密な連携に務めたいと運営者は話している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	離苑傾向のある方には、見守り、声かけで対応しているが、納得されない時は、スタッフと散歩や気分転換で落ち着き納得され帰苑していただける様、対応している。	2か月毎に開催している身体拘束適正化委員会で、止むを得ず身体拘束を検討したこともあるが実施には至らなかった。ミーティングで言葉による拘束について研修している。入居者が居室窓から外に出られたことを職員がすぐに気づき、一緒に玄関から帰園された。ベットの位置を変えて動向を見守り、声かけをしたり、一緒に外に出て気分を変えてもらっている。	身体拘束の具体的内容のさらなる周知とともに、実施された会議や研修記録の整備を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待につながる対応の再確認と、虐待防止への理解を深められる様、ミーティング時に話しをして、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見制度を2名の入居者さんが、利用されている。制度の有効性について学び理解を深め活用していきたい。	遠方在住の家族の要望で、後見制度を活用されている入居者がある。利用料の支払いが滞りがちの入居者について、制度の活用を検討したいが、制度を活用することで、親族の来訪が遠のくことを、運営者は懸念している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ご家族に重要事項説明書・利用契約書にて、利用料、生活環境及び緊急時の対応等、生活面、金銭面等、理解できるように説明し、納得いただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族や入居者さんから、意見・要望があった際は、ミーティングや申し送りで報告し、対応について検討し、今後に反映できるようにしている。	年4回、行事や誕生会の折の入居者の写真を満載した通信を発行したり、家族の面会については書面でお願ひし、意見の表出を促している。家族から伺った入居者や職員のマスクの着用に関する意見は、ミーティングで全職員に周知し、運営への反映に努めている。	新型コロナウイルス感染動向が予測できない状況から、現通信の発行回数の検討や、ホームの様子や個々の入居者の心身の状況や写真、ホームからのお願い事項など、記載内容の工夫で、運営に関する意見の表出を期待します。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のミーティングにて、スタッフの意見交換や提案の場を設け、それに対して検討し、反映できるようにしている。	運営者の参加で、定期的なユニット合同のミーティングは開催され、会議録は欠席者に回覧している。職員の意見でお膳や食器乾燥機、ミキサーが購入され、運営者は感染防止対策の徹底や家族面会の制限撤廃を伝達している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給休暇の取得や、資格取得、研修参加のための勤務調整、向上心に応じられる様努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集、採用にあたって特に性別・年齢・経験による基準は設定していない。資格取得に関しては、勤務調整等、出来る限りの支援を行っている。研修の参加を促し、スタッフにとって有益になる様配慮している。	定年はなく、20歳代～70歳代の夜勤専従を含む男女の職員が勤務している。ロコミでの入職が多いが、職場の雰囲気が良いと再就職したり他ホームより入職した職員もある。就労時間やシフトの希望が叶い、昼休みや年休取得を支援しているが、職員数が課題となっている。ユニット間の異動で職員のスキルアップを図り、資格を持たない職員の研修受講を支援する予定である。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	「利用者本位である」ということを常にスタッフに伝え、意識を持って接している。人権尊重を呼びかけスタッフ同士でも尊敬の気持ちを持って接する様に心掛けている。	年間研修計画に身体拘束や虐待防止に関する研修を組み入れ、人権研修に取り組んでいる。言葉遣いや接遇についてミーティング等で周知し、「入居者に意見を伺う」姿勢で声かけをしていると話す職員もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍前までは、外部研修・介護講座に参加していただき、研修内容の報告、勉強会、意見交換を行い、知識、技術をスタッフ全員が共有し、一人ひとりのスキルアップとサービス向上に努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域密着型サービス事業所連絡協議会に参加し、研修会や同業者との交流を通して得た情報を参考にし、サービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	スタッフを認知してもらえる様、時には冗談を交え話しやすい雰囲気作りをし、生活歴や趣味等の話を傾聴し顔を覚えてもらい、より良い信頼関係を築けるように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所してからの様子、状態を丁寧に笑顔で説明し、話し易い雰囲気作りを心掛けている。会話することでコミュニケーションを図り、ご家族からの要望や思いを口にしやすい関係作りに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族と話し合い、状況・状態に合った介護をサービスできる様、皆で話し合っている。出来る限り要望に添える様、訪問診療や受診を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	他人に介護されているという劣等感を抱かない様に家事や身の回りで出来る事を見つけ、やりがいとして継続していけるよう、見守りサポートしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る範囲で病院受診はご家族に対応してもらい、外出や面会を通じ触れ合う機会を増やし、家族との時間を大切に心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族・知人・友人の方が面会に来られた際はゆっくりと過ごせるよう、また来訪していただけるような雰囲気・環境作りを心掛けている。地域を散歩し近所の方々と挨拶・会話をするにより親交を継続できる様努めている。	コロナ禍の中、運営者は家族に会わせたいとの篤い思いから、玄関でソーシャルディスタンスを取りながら短時間の面会を支援してきた。今月から、検温や手指の消毒、マスク着用で居室での面会となったが、毎日面会されていた家族も状況に配慮され、5日毎に来訪されている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が楽しく会話できる様、スタッフが間に入り会話をしたり、入居者同士で楽しめるレクリエーション等も行っている。食事の席や入居者の関わり合い等を考慮している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前入居されていた入居者家族との関係は大切にしており、いつでも立ち寄り、必要に応じて相談をお受け出来るホームづくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通の出来る方は、会話にてご本人の希望に添えるように努めている。意思疎通が困難な方は、ご本人の表情・行動・仕草・反応等を観て、観察・洞察し希望に添えるように努めている。	日々の関わりから意向の把握に努め、「家に帰りたい」との思いを明記した介護計画書もある。塗り絵用の色エンピツや洋服のボタンを口に入れる入居者には、ボタンの無い洋服を着用してもらい、言動を見守っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族・ご本人さんより生活歴・生活環境等の情報を収集している。スタッフとコミュニケーションを図る中で、ご本人さんから聞き出し、全スタッフが把握できる様努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方については、記録(生活の証を残す)による把握と、スタッフ間の申し送り(情報の共有)にて、その日や最近の心身状態や有する力等の現状の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様・ご家族様の意向と担当スタッフの意見とユニットスタッフ全員の意見を盛り込んだ介護計画を作成している。	日々のケアをチェック表で確認し、計画の見直しに繋げている。「好きな物を食べたい、好きなように過ごしたい」と主治医が勧める血液透析を拒否し、自室で食事を摂り入浴もしない入居者が、より良く暮らす支援を模索している。	理念の日々の喜びや笑顔を大切にした居心地良い安心した生活を支援するために、具体的な短期目標やケアの設定や実践、成果のモニタリングを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の状態・様子・変化を個別で記録し気づきや特別な変化等を申し送りやミーティングで話し合いをしている。連絡帳などを活用しスタッフ間で情報を共有し介護支援や介護計画に活用している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者やご家族からの相談や状況に応じて日々変化する気持ちに柔軟に対応し、受診対応・散髪・買い物など、その時々に応じた介護や支援を実施している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍ということもあり、大規模な行事を行うことができませんでしたが、定期的に行われている運営推進会議に、地域の方へ出席していただき、日々の入居者の生活や様子を知っていただけるようにしている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご家族・ご本人が希望される病院で受診・診察ができる様支援している。訪問診療を希望されるご家族には協力医の訪問診療への変更を支援している。各自の受診記録を作成し、健康状態を把握できるようにしており、緊急時、主治医に報告し、指示・往診を受けられるようにしている。	希望される医療機関受診や4か所の医療機関からの訪問診療を支援している。薬の服用中止を受け入れられない家族の思いを主治医に相談し、服薬を継続している方もある。訪問調査当日、救急搬送となった入居者の主治医に、体調変化や救急車を呼んだ経緯を管理者が報告している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤ではないが看護職員が出勤した際、健康管理のアドバイスや助言を受けている。特変がある時は、主治医に報告し、指示・往診を受けられるようにしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中、定期的に病院へ行き、入居者に会い病院やご家族の意向や、状態を把握し情報共有し安心して治療ができる様、支援している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃より、病状等はご家族・スタッフで情報共有に努めている。重度化・終末期になった時は、ご本人・ご家族の意見を尊重し出来る限り希望に添える様に、主治医と連携しケアを実施している。	昨今2名の方の看取りは、親族を看取るとの思いで関わり、運営者が初盆参りをしている。調査当日、重篤な既往症があり救急搬送された方は、終末期はホームでと希望されている。血液透析を拒否される入居者の主治医からは、いつでも入院を受け入れるとの指示を受け、密に連携しながら、重度化に対応する予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時には、主治医に報告し指示を仰ぎ対応している。必要があれば救急車を要請している。事故発生時対応マニュアルを作成しミーティング等で定期的に確認している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防訓練を行い、避難経路・誘導・対応を確認し、時間を計測している。運営推進会議にて、地域の方の協力等をお願いしている。また、各居室にスプリンクラーを設置している。	消防車がすぐに駆け付けられる地の利で、年2回の避難訓練は夜間想定とし、消防署から借りた水消火器で訓練をしている。運営推進会議メンバーからは、緊急時はすぐに駆けつけるとのこころ強い言葉や、水害時の避難場所の提供の申し出もある。食料品の備蓄台帳を整備している。	自然災害や新型コロナウイルス感染症発生時に業務を継続するためにも、オムツなどの衛生用品や感染予防用品の消毒薬やマスク、使い捨て手袋などの備蓄を期待します。また、緊急持ち出し書面にキーパーソン連絡先の整備もお願いします。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者さんの生活歴や性格を把握し、プライドを傷つけない様に声かけを実施している。	プライバシーを年間研修計画に組み入れ、日頃からミーティングなどで接遇について周知している。運営者が率先して、穏やかな口調や対応を実践している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から入居者とコミュニケーションを取り、スタッフとの信頼関係が築ける様にしている。そのうえで言動の中から思いを察し出来る限り希望に添える様にしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調や生活リズムに合わせ、食事・トイレ・睡眠を支援できる様努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師の方に来ていただき、スタッフが入居者に似合う髪形をお願いしている。化粧品を持っている入居者にはお出かけの時に化粧していただいている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな食べ物や食べたい物をレクリエーションや会話する中で聞き、メニューや食事会で提供している。定期的にお好み焼き・焼肉・お鍋をしたり、敬老会では毎年握りずしを提供しとても喜ばれている。	職員1名が順番に検食している。食べ物かどうかや食べ方が分からなくなった方もあり、職員が見守りや介助をしている。自ら準備や下膳、食器洗いを行う入居者もある。入居者の希望の献立が食卓に上り、人生初のマクドナルドのハンバーガーは美味しいと好評だった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のメニューは出来るだけ栄養バランスが摂れる様工夫している。水分量は定期的に水分補給の時間を設けている。食事・水分量をチェックし、摂取が少ない入居者の方には好みの食べ物・飲み物等を提供し摂取していただける様支援している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施し、一人ひとりの状態に合ったハブラシ・歯間ブラシ・口腔スポンジを使用している。義歯の方は毎日就寝前に洗浄を実施している。重度歯周病のある入居者の方は定期的な歯科訪問診療を受け定期的な口腔ケアの点検・治療、口腔ケアを実施している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄の状況を把握し定期的に声かけ誘導を行い出来るだけトイレで排泄していただける様支援している。夜間はオムツ・パットを使用し、定期的にパット交換をしている方もいる。	排泄が自立している入居者もあるが、トイレの場所が認識できず居室で排泄する入居者もあり、排泄パターンやサインでトイレに誘導している。夜間はセンサーで訪室したり、入居者の睡眠を妨げない様に、パットの種類や枚数、当て方を工夫している。	認知力やADLの低下でおむつや尿取りパットの使用に至る経緯から、看護職員とともに尿路感染症の防止対策を期待します。
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の排便状況を把握し、水分多めに提供するなど工夫をしている。排便チェック表を活用し、排便困難な方には主治医より処方されている下剤等を使用し定期的な排便を促している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ゆっくり入浴ができる様、自立に近い方には見守りにて気持ち良かったと思っただけの様努めている。シャワー浴の方は、足浴を実施する等配慮している。拒否されたときは、時間をずらし落ち着かれて入浴していただいている。	週3回を目途に、午前中の中の入浴を支援している。大きめの浴槽が設置されたユニットでは入居者同士の入浴もある。理解できる言葉数が少なくなり入浴を拒否される入居者は、時には3名体制で支援することもあるが、浴槽に入ると気持ち良いとなっている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は体操・レク活動を促ししっかり身体を動かし活動的に過ごしていただき、夜間安眠できる様支援している。個々の状況、生活習慣に応じて休息していただいている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬内容を理解・把握できるようにし、間違い・飲み忘れがない様、飲み込みまで確認し、チェック表に記入している。薬の変更や、追加処方された際は、連絡ノートを活用し、スタッフ全員で情報共有をしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1日2回のレクの時間を設けており、皆さん楽しみにされており、時間になるとホールに出て来られている。家事が得意な方には、洗濯物たたみや簡単な洗い物等、手伝っていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今回はコロナ禍の為、ほとんど外出はなく、ホーム内でのイベント(主に食事会)をしたり、天気の良い日には玄関先のベンチで日向ぼっこをする事が多かった。春に近く公園にお花見(桜)を見ながらおやつを食べた。ご家族と受診された際外食や買い物をする方もいる。	今春は入居者全員で公園の桜を見学している。家族と受診時、外食や買い物に行かれる方もいる。近隣を散歩後ホーム玄関前で転倒し上腕を骨折された方があり、安全な外出支援を苦慮している。状況を説明した家族からは「すみません」の言葉があるなど、日頃の良好な関係づくりが伺える。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はご家族の方が管理されている。お預かり金を預かりご本人が買い物希望されたときはスタッフ、またはスタッフと一緒に買い物をして好きな物をいつでも購入できるようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話をしたいと希望された際は、出来る時間に希望を聞いてかけている。年賀状と暑中見舞いは、レクの時間に書いていただき、書けない方はスタッフが代筆してご家族にお出ししている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には快適に過ごせるよう、エアコン・加湿器を使用している。冬場には、足元から温まる様床暖房を使用することにより、快適温度が保てるように配慮している。	ホーム前の花壇やプランターには季節の花が植えられ、一休みできるベンチが置かれている。事務室の両側に各ユニットの玄関があり、その前の明るく広い居間は、テーブルやイス、テレビコーナーにはソファが設置され、食後も職員と話したり、レクレーションに興じる入居者の声が聞こえる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には好きな場所で寛げる様、ソファを配置している。廊下にもソファを設置し、一人でゆっくり過ごしてもらえる様に配慮している。レクレーションでは、テーブルを活用し、パズルや塗り絵等、趣味に取り組みまれ、自由に過ごされている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に好きな様に居室を使用していた様お伝えし、好みの家具や仏壇・鏡台等を持って来られ馴染みの空間作りをされている。身体状況に応じては、エアーマットを使用いただいている。	各居室の各ユニットの花が描かれた表札には、入居者や担当職員名が記載されている。ベットやクローゼットが備え付けられ、窓のある居室は広く明るく、整理整頓されている。テーブルや椅子、仏壇などが持ち込まれ、壁には敬老会で贈られた職員の寄せ書きが掲示され、居心地良い居室となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全対策として、全居室にナースコール・手すりを設置している。ふらつきや、転倒のリスクがある方にはセンサーマットを設置し、安全に移動できる様支援している。		